

令和2年1月27日

県木協だより

編集発行 宮城県木材協同組合
仙台市青葉区東照宮一丁目 8-8
TEL 022-233-2883
FAX 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp
URL:http://www.miyagi-wood.jp/

謹賀新年



年頭のご挨拶

理事長 千葉基

新年おめでとございます。

皆様には希望に満ちた新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は、本組合の運営に格別のご理解やあたたかいご協力、ご支援を賜りましたことに、ありがたく厚く御礼申し上げます。

昨年十二月、国民待望の「国立競技場」が新築落成しました。今年開催される東京オリンピックのメイン会場となります。このスタジアムの設計決定までは、いろいろないきさつがありました。結果的に日本を代表する建築家隈研吾氏の手によって、木材をふんだんに使った「和の雰囲気」の香る素敵な杜のスタジアムができあがりました。私達木材業界人にとって感動的な建物です。

特に外観の木使いは印象的です。上

部の大きな庇は、風を効率的に取り込みます。そして大型木造建築を想像させる縦格子はとても存在感があり、四十七都道府県の木材を使用しているとのこと。外からでは分からないのですが屋根は同一フレームを繰り返すシンプルな構造です。下弦材はカラマツ、屋根を支えるラチス材は杉です。国産の木材と鉄骨を組み合わせたハイブリッド構造になり、強度を保ちます。私自身は外観しか見ていませんが内部も是非見てみたいと思っています。

また、当組合前理事長・黒川森林組合代表理事組合長の佐藤豊彦氏が第五十四回全国木材産業振興大会において、木材産業功労者として林野庁長官賞を、元副理事長・(株)幸田屋商店代表取締役会長幸田一男氏が令和元年文化の日表彰において、宮城県知事から産業功労を受賞しました。誠にありがとうございます。

また、令和の新時代、二〇二〇年代、十二支の始まりの年にあたって私達木材業界の課題は木材生産量の増大

また、昨年は全国的に台風被害の大きな年でした。

特に台風十九号により、宮城県も大変な被災となりました。日本全国、県内各地で人命や家屋が失われ、山林や農地も大きなダメージを受けました。

被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。そして一日も早い復旧復興を心からお祈り申し上げます。

一方、昨年は大きな慶びの年で

と木材利用の拡大につきます。

木材生産では、県内木材需給量を見ますと、大幅な県産木材供給不足であり、一方伐採量は成長量以下となっています。

木材利用では合板、製紙用が大半を占める中、製材用が伸び悩んでおり、さらには今後木質バイオマスの増加が見込まれます。

木材生産と利用の増のためには、山側の資源価値の最大化を目指しながら流通の合理化、加工製造の高付加価値化につながる取組に智恵を出していく必要があります。併せて、非住宅建築物や都市の木造化を飛躍的に発展させることが重要です。

これらにより、山側も木材業界も需用者も満足し、地球温暖化防止につながる「伐つて、使つて、植えて、育てる」循環型利用が可能となります。

最近の台風や山火事等気候変動の現れを見れば、温暖化対策は、世界的な課題であり、その対策は急務であります。これに対して私達木材業界が果たす役割の意義と大きさを改めて想い、誇りを持ちながら足下のできることから取り組んで行きましょう。

結びに、本年の木材産業の発展と皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



宮城県水産林政部
技術参事兼林業振興課長
田中 均

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるに当たり、宮城県木材協同組合会員の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

また、令和元年台風第十九号の豪雨により、お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

さて、最近の林業・木材産業の動きを見ますと、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立に向けて、「森林経営管理制度」がスタートしたことやCLTの着実な普及、一般流通製材品による中大規模の建築といった新しい技術の進展、再生可能な循環型エネルギーとしての木質バイオマス利用など、更なる木材需要の創出に向けた活発な動きが見られます。

宮城県の森林・林業においても、平成三

十年に「みやぎ森と緑の県民条例」が施行され、その基本計画である「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」に基づき、CLTの普及拡大や木質バイオマスの利用促進などを通じた「新たな木材需要の創出」のほか、素材生産現場や原木の需給調整における「ICT（情報通信技術）の活用」と森林資源管理を連携した「スマート林業の進展」など、各種施策に取り組んでいるところがあります。

特に、CLT活用建築を更に普及させるため、令和元年度からはトータルコストの低減実証をはじめ、非木造や戸建て住宅における活用や店舗・倉庫など画一的な建物でのユニット化など、あらゆる場面でCLTを活用する取組に支援の幅を拡げ、県産木材の更なる利用拡大を図っております。

また、より多くの方々に宮城のCLTを周知するため、仙台空港の新ターミナルや仙台駅エスパルにCLT製ベンチを設置し、広く県内外に向けて、県産木材や木の良さを知っていただく取組を進めているほか、県林業技術総合センター（大衡村）がCLTを活用したシンボリックな施設として令和二年度末に完成する予定となっております。

会員の皆様には、宮城県内の木材需要がさらに喚起されるよう、新分野への素材供給力の強化と県産木材のさらなる利活用、そして、ニーズを捉えたタイムリーな製品供給などにつきまして、引き続きの御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、宮城県木材協同組合の今後ますますの御発展と、会員の皆様の事業御繁栄を祈念申し上げ、年頭にあたつての御挨拶といたします。

／／／地域から／／／

「森林認証で築くサプライチェーン」

～登米市森林管理協議会による

森林認証材供給～

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所

○登米市における森林認証取得と

面積拡大

森林認証とは、独立した第三者機関が一定の基準をもとに、適切かつ持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織を認証し、合法的に生産された製材品等（認証材）をラベリングし流通させる制度であり、合法木材が必須とされる近年の木材市場において大きくクローズアップされています。

登米市では市有林の森林管理認証（FS

CIFM認証）取得とその管理のため、市（森林所有者）及び市内の各森林組合（森林整備を受託する者）などにより「登米市森林管理協議会」を組織し、平成二十八年十二月に認証を取得しています。

その面積は認証取得時の二、七四三haに始まり、平成二十九年九月から令和元年十月にかけて市内の森林組合、生産森林組合、個人が管理する森林が追加認証され、現在は八、八六六haまで拡大しています。

○認証木材のサプライチェーン構築

森林認証では、その認証審査や、毎年の年次監査を受検するのに少なからぬ費用を負担しなければなりません。これらを回収するだけの経済的メリットが得られなければ、認証制度の定着や継続は難しいといえます。



FSC 認証審査

このため、登米市森林管理協議会では平成二十九年年度から、FM認証森林からCO認証事業者（認証材の分別管理体制を認証された加工・流通事業者）までを通したサプライチェーンの構築に取り組んでいます。現在、石巻市の合板メーカーへ「スギB材」と「アカマツ材」を、また岩手県北

上市の製紙メーカーには「小径の広葉樹材」を、そして静岡県や秋田県のフローリングメーカーに「広葉樹材」と「アカマツ材」を協定販売によりそれぞれ供給しています。

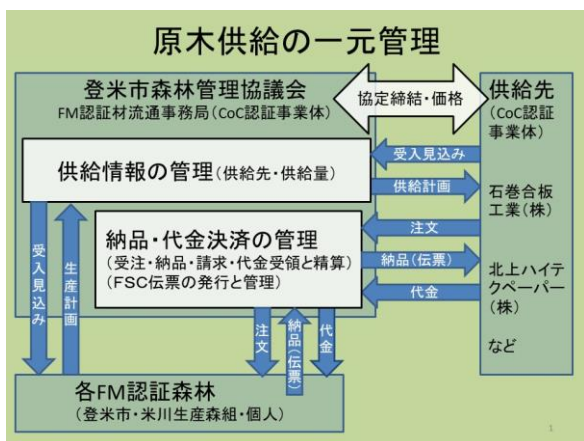
供給先からは、「原則として買取価格は非認証材と同等とするものの、供給計画に基づく安定的な取引が可能となっていることから、受け入れは優先して行いたい。」との条件が示されており、このことは、登米市の森林が森林認証取得により集約化されたことで、「安定した供給元」として期待されていることを示すものといえます。

今後の課題としては「スギA材」の安定供給があげられ、伐採現場での分別や集積など、供給体制の構築を図る必要があります。

○今後の展望
森林認証は、追加認証による面積の拡大と並行して、その認



製紙用材の出荷



証を「ツール」(道具)として活用し、認証材のサプライチェーンを構築すること、すなわち継続的かつ安定的に、認証材の生産と供給を持続していく仕組みを地域(川上・川下)に作ることで「経済的メリット」を創出していかなければなりません。

この仕組みづくりが認証森林の増加、認証材生産・供給の安定化、供給先の増加へとつながり、地域の森林・林業の活性化が図られていくと考えています。

登米市森林管理協議会では、今後も引き続き認証森林の拡大及び認証材のサプライチェーンの強化に向けた取組を継続していく計画です。

『第二十一回みやぎ木造住宅コンクール結果』

県内各地から応募作品が寄せられ厳正な審査の結果次のとおり表彰されることになりました。

なお、入賞作品は木造住宅コンクール写真集として発行しております。

施主市町・施工者・設計者

最優秀賞 宮城県知事賞

石巻市・(株)サステイナライフ森の家

・アトリエ森の舎

優秀賞 宮城県木材同友会会長賞

南三陸町・志津川建設(株)・(有)ササキ設計

優秀賞 宮城県建設職組合連合会会長賞

利府町・(有)伊藤工設計・同

優良賞 仙台市・(株)クリア平塚

・(有)ササキ設計

優良賞 仙台市・(株)カネソ曾根建業

・同設計事務所

特別賞 宮城県建築士事務所協会会長賞

仙台市・小野寺大工店・由利設計工房

表彰式は三月七日(土)午前十時半から、各後援団体等関係者列席のもとホテル

白萩にて執り行います。



最優秀賞



栄えの受賞

令和元年年文化の日表彰(十一月八日)

産業功労

元副理事長 幸田 一男氏

第五四回全国木材産業振興大会

(十一月六日 於高知市)

林野庁長官感謝状

前理事長 佐藤 豊彦氏

新組合員の紹介

吉田運送(南三陸町歌津)

代表 吉田 伸次

(株)興栄(仙台市太白区)

代表取締役 山田 善一

特定非営利活動法人しんりん(大崎市)

理事長 大場 隆博

どうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度 林団連講演会 開催案内

日時 二月十四日(金)午後一時半

場所 仙台国際センター

主催 林団連・森林林業活性化センター

演題 『持続可能な開発目標(SDGs)と木質バイオオマスの利活用』

講師 NPOバイオオマス産業社会ネットワーク

申込 当組合までお問合せください

受講費助成 新入社員育成セミナー

就業前の新人教育として、組合員各社の新入社員向けに左記セミナーへの参加経費の一部を助成します。

日時 三月二十五日(木)午前十一時から二

六日(金)午後五時 一泊二日

場所 エスポールみやぎ(仙台市宮城野

区)

主催 ニュークリエイティブマネジメント

内容 基本思考、基本姿勢、基本動作等

料 金 二万九千円(宿泊・昼食代含)

組合から一人二万円、一社当たり三人分

六万円を限度に予算の範囲内で助成します。

詳細は組合までお問合せください。

大暖冬。自然環境は常に変化します。社会環境も同様。変化に対応できるものが生き残るとか。

今年もよろしくお願いたします(好)